

COG2025 応募内容確認書

ID	45-23-6
自治体名	兵庫県姫路市
自治体提示地域課題	姫路市のブランドメッセージ&ロゴを活用した暮らしの魅力発信
チーム名	姫路商業高校
アイデア名	ふれあいコミュニティー
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	2
代表者	佐伯 星奈
メンバー（公開）	佐伯 星奈, 島本 悠花

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

ふれあい食堂を広める

チーム名:ふれあい食堂

アイデア名:地域を繋ぐ触れ合い食堂を広める

自治体名:姫路市



ふれあい食堂主要内容

What (何に)

地域の人々が一緒に食事を楽しんでいる様子をポスター・動画で発信する

Who (誰が)

地域の学生ボランティア・主婦・福祉団体・自治会が協力して運営。

Who (誰に)

高齢者・子ども・ひとり親家庭・地域住民や姫路市以外の誰でも気軽に参加できる。

Where (どこで)

SNSや姫路の施設などで発信

How (どのように)

チラシでふれあい食堂をひろめ、地域の温かさや住みやすさを広める

2. アイデアの理由 (Why)

ふれあい食堂をすることで高齢者の孤立・孤食を減らしたい、子どもの孤食や家庭の経済的困難を支えたい、地域外の交流も深め、姫路の良さを他の地域にも人に知ってもらおう

実現までの流れ (How)

ポスターで広めて食堂に来てもらい姫路の良さを広める

根拠と裏付け

【社会的背景】

- ・高齢者の約15%が「週の半分以上を孤食で過ごす」をしている。（農林水産省）
- ・「子ども食堂」は全国で7,300か所あるが、高齢者と子どもが同時に交流できる場はまだ少ない。

【地域の実情】

- ・姫路市でも一人暮らし高齢者の割合が増加。
- ・学校や自治会の活動減少により、世代を超えた交流機会が少ない。

【効果の見込み】

- ・食育・思いやり・地域交流の向上。
- ・他の地域の方たちとの関わりが深まる

実現までのプロセスとスケジュール

1ヶ月目

ポスターで食堂を広める

2～3ヶ月目

食堂に来てもらって姫路の良さを広める

まとめ

「ふれあい食堂」は、食事を通して”人と人が支え合う”地域社会をつくる活動である。

そのような取り組みを姫路の魅力としてブランドメッセージとともにSNSで配信することで、姫路の魅力がより深まり、「住むほどに好きが深まっていく」と考える。